

1. 小児医療や育児に関する情報やサービスは？

→母乳や育児、産後の健康等に関する不安や悩みについての相談。

ふくしまの赤ちゃん電話健康相談 ダイヤル：0120-80-2051
（一般社団法人福島県助産師会）

→夜間の急な発熱などの緊急時の電話相談 短縮ダイヤル：#8000

→医療機関の情報について。

[ふくしま医療情報ネット](#) [検索](#)



2. 保育所、延長保育・病後保育などの拡充は？

→保育所では、各保育事業を実施し、地域の子育て家庭に対して支援を行っています。

[福島 保育所一覧](#) [検索](#) [福島 保育事業](#) [検索](#)

3. 女性の身体、心のケアを気軽に相談できる場は？

→思春期から更年期までの女性の心やからだの悩みについては、保健師による電話相談をご利用ください。

[福島 健康サポートコール](#) [検索](#)

4. 屋内でものびのび遊べるところは？

→県では、屋内遊び場確保事業を活用し、整備を行っています。

[福島 屋内遊び場](#) [検索](#)

妊産婦専用ダイヤルにご相談ください

妊娠・出産・育児に関わることでつらいと感じる時もあります。これでもいいのか相談したくなった時、心がつらくなった時は一人で悩まずに下記のセンターお問い合わせ先まで電話またはメールでご相談ください。専任の助産師・保健師等が、お電話でお話を伺います。



これからも、福島県・福島県立医科大学では、皆さまのこころと身体の健康を見守ります。

詳しい調査結果について

具体的な調査の結果につきましては、以下のホームページをご覧ください。
平成 28 年度調査にご回答いただいた結果は、平成 29 年 3 月にホームページに掲載の予定です。

<http://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/>

[福島 妊産婦調査](#) [検索](#)



相談・調査に関するお問い合わせ先



妊産婦専用ダイヤル：024-549-5180
（平日 9:00 ~ 17:00）

妊産婦専用メール：ninqu@fmu.ac.jp

福島で妊娠・出産された方へ
～ 県民健康調査「妊産婦に関する調査」結果～

今までの調査にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。福島県と福島県立医科大学では、平成 23 年度より、妊娠届け出約 1 年後と出産約 4 年後に「妊産婦に関する調査」を行っています。

調査の目的

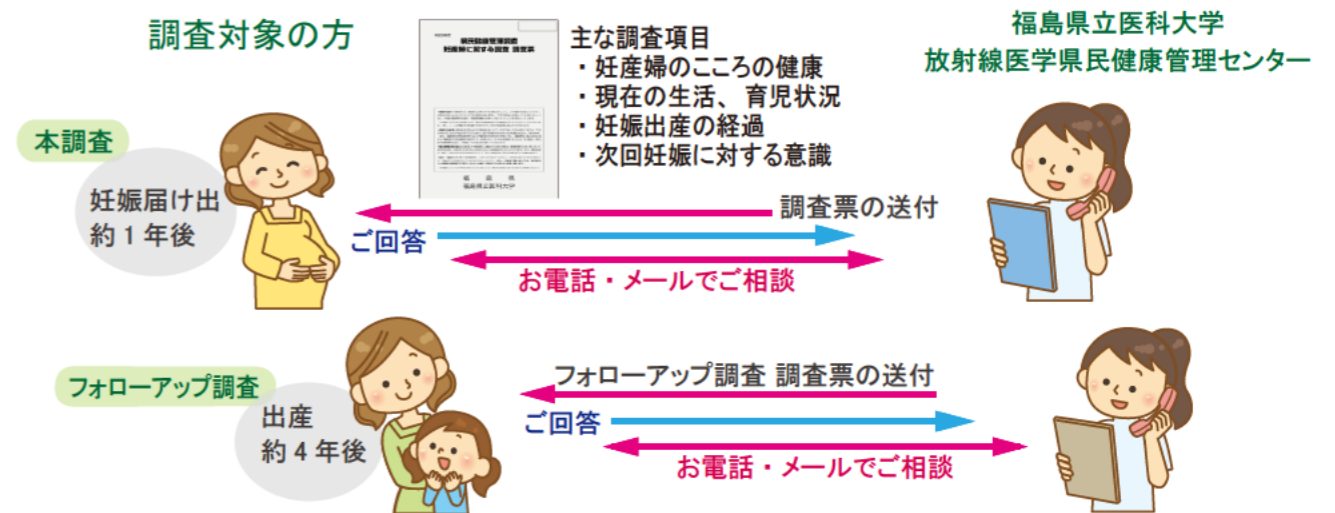
妊産婦の皆さまの
こころと身体の
健康状態を把握します

回答いただいた方
の中でケアが必要な方を
サポートします

今後の福島県内の
産科・周産期医療の
充実に活かします

調査の概要

調査の回答内容から、支援が必要と思われる方には専任の助産師・保健師等からご連絡いたします。電話やメールを通して不安や悩みに関するご相談、支援をしています。



●平成 28 年度の本調査対象者

- ① 平成 27 年 8 月 1 日から平成 28 年 7 月 31 日に福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方
- ② 上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、福島県で里帰り出産された方

●平成 28 年度のフォローアップ調査対象者

- 平成 24 年度調査に回答いただいた方で、平成 23 年 8 月 1 日から平成 25 年 4 月 8 日に産まれた方

調査対象者数とご回答数

調査年度	対象者	ご回答数	
平成 23 年度	1 万 6001 人	9316 人 (58.2%)	
平成 24 年度	1 万 4516 人	7181 人 (49.5%)	
平成 25 年度	1 万 5218 人	7260 人 (47.7%)	
平成 26 年度	1 万 5125 人	7132 人 (47.2%)	
平成 27 年度*	1 万 4572 人	6866 人 (47.1%)	
			※平成 28 年 8 月 31 日現在
			出産約 4 年後に フォローアップ調査を実施
	対象者	ご回答数	
	7252 人	2554 人* (35.2%)	



※平成28年8月31日現在のデータです。

❁ 回答してくださった方の半分以上が、これからも妊娠・出産を希望しています。

●「次回の妊娠・出産をお考えですか？」

「はい」と答えた方

全国調査	本調査			
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度※
平成22年度 51.0%	平成24年度 52.9%	平成25年度 52.8%	平成26年度 57.1%	平成27年度※ 53.4%

「はい」の方が希望が多かったサービス
(平成27年度)

- 1位 保育の充実
- 2位 育児、小児医療に関する情報やサービス
- 3位 産休・育休等の充実



全国調査：「平成22年第14回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している場合（既に子どもがいる場合）

❁ 早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国調査の値や一般的な水準と変わりませんでした。

	早産率		低出生体重児率		先天奇形・先天異常発生率(単胎のみ)	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
	平成23年度	4.75	5.7	8.9	9.6	2.85
平成24年度	5.74	5.7	9.6	9.6	2.39	
平成25年度	5.40	5.8	9.9	9.6	2.35	
平成26年度	5.43	5.7	10.1	9.5	2.30	
平成27年度※	5.66	—	9.7	—	2.22	

全国調査：人口動態統計における割合および発生率
早産：妊娠22週から37週未満で生まれた赤ちゃん
低出生体重児：2500gよりも小さく生まれた赤ちゃん

❁ うつ傾向は減ってきていますが、まだ高い水準にあります。

●うつ傾向

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度※
本調査	27.1%	25.5%	24.5%	23.4%	21.9%
フォローアップ調査					25.6%

(平成23年度調査回答者へのフォローアップ調査を平成27年度に実施)

最後のページに記載してあるお問い合わせ先に、どうぞお気軽にご相談ください。

❁ 最近は、母親のこころや身体の健康に関することが多くなっています。

●主な電話相談内容

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 平成27年度※ (同じ順位でした)	平成23年度の フォローアップ
1位	放射線の心配や影響	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康
2位	母親のこころや身体の健康	子育て関連	子育て関連	子育て関連	放射線の心配や影響
3位	子育て関連	放射線の心配や影響	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること	子育て関連

「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など

Q なぜ、2013年4月2日以降に生まれた子どもは甲状腺検査をしないの？

A 甲状腺がんに影響を与えるのは放射性ヨウ素です。放射性ヨウ素は事故後約1ヶ月でほとんどなくなりました。それ以降は放射性ヨウ素はほとんど存在しないため、検査は不要です。詳しくはこちら。

福島 甲状腺検査 検索

Q 予防接種はどのようなスケジュールをするの？

A 予防接種は生まれて2か月後からです。スケジュールはかかりつけの医療機関や保健センターで相談できます。同時にいくつかの接種もできます。できるだけ早く受けることがお子さんの病気を防ぐことにつながります。

Q 水道水が心配。ミルクを作るときはミネラルウォーターを使った方がよい？

A 平成23年5月以降、福島県内の水道水から放射性物質は検出されていませんが、売っている水をお使いになってもかまいません。硬水（マグネシウムやカルシウムが多い水）は消化が悪いため、調乳に適しません。軟水を使いましょう。

Q 上の子のやきもちで、毎日イライラしてしまいます。どうしたらいいの？

A やきもちは、上のお子さんの心が成長しているためですが、接し方が難しいこともあります。下の子がお昼寝した時は上の子とじっくり遊ぶなど、意識的に上のお子さんとの関わりの時間がとれるよう工夫してみましょう。

Q 育児相談ができる場所はありますか？

A 福島県助産師会では育児に関する無料相談を行っています。母乳の放射性物質の検査も行っています。その他、子育てサロン、家庭訪問、母乳育児支援（乳房トラブル等）、宿泊ケア・日帰りケアを県内各地で行っています。ご利用ください。

福島県助産師会 ☎ 0120-80-2051 (平日 9:30 ~ 16:30)

